

2019年度台湾スクーリングに参加して

岩上さん（2023年3月 法学部卒）

私が台湾スクーリングに参加したきっかけは、大学の1年目に早く単位を取りたかったこと、仕事の休みが取りやすかったタイミングだったこと、そして海外旅行に行きたいと思っていて直前にパスポートを取得していたからです。初めての海外旅行で不安や戸惑いがあり、申し込みを迷っていましたが、自分の成長のために一歩踏み出す必要がある、大学の授業である安心感もあり、人生の経験として申し込みました。



台湾スクーリングには何を持っていけばいいのか、どんな服装が適しているのか、台湾語や中国語も話せないのにどうしようと不安なことばかりでした。そこで、教科書の購入を名目に事務局に電話しました。教科書は事務局で購入できたり郵送も可能だと教えてもらいました。台湾スクーリングについて尋ねると、とても親切に期間内のスケジュールや食事、台湾元への換金のタイミング、お金の使い方、服装について（12月下旬でも薄手の羽織るものが十分とのこと）、充電器がそのまま使えること、台湾のトイレ事情まで、細かく教えてもらえました。特に言語の壁に関しては心配ないと言われてとても安心しました。

出発日の朝、関西空港の国際線カウンター近くに、近畿大学の旗や早めに来られている参加者で、ここが集合場所だとすぐに分かりました。旅行会社が航空券などをスムーズに手配してくれていたのも、心配することなく手続きができました。参加者は5人で、その中には2回目以上の経験者が3人いました。再び参加したいと思う気持ちは、楽しいスクーリングなのだと少しワクワクしました。飛行機の出発までロビーで待つ時間があり、参加者同士で話をすることができました。前回の経験や他の海外旅行の話、そして台湾が親日で過ごしやすい場所であるという話も聞いて、初めての海外旅行の緊張も次第になくなっていきました。

飛行機のフライト時間は約3時間であり、あっという間に桃園国際空港に到着し、暖か

い気候と周りの言葉のわからなさに戸惑いながら、現地のガイドさんと合流し、バスでスクーリングの会場に向かいました。ガイドさんは流暢な日本語で話してくれて、冗談も交えて楽しい移動時間を過ごすことができました。バスの運転手さんも台湾語で話し、すぐに私たちと日本語で会話してくれる姿に感動しました。さらに、独学で日本語を勉強したという事実にも驚きました。

バスの中から見ると台湾の景色は新鮮でした。ゲートのない高速道路でスムーズに走ることや、高層マンションが建設ラッシュなのに空き家が多いこと、山の斜面にたくさんの墓地があることなど、様々な知識を景色を通じて吸収することができました。



スクーリング会場に着いて最初にびっくりしたのは、その規模の大きさです。学習教室以外にも宿泊施設やコンビニ、スポーツジムなどがあり、入り口はホテルのロビーのような感じでした。部屋に荷物を置きに行くと、2つの驚きがありました。エアコンがあるにもかかわらず暖房機能がないことでした。おそらく台湾は一年中暖かいからなのでしょう。

授業の準備を終えて、部屋を出て教室に入ると、たくさんの台湾の方々がありました。彼らは近畿大学の卒業生で、毎年このスクーリングの激励としてたくさんの差し入れを持って来てくれるそうです。開会式では、彼らは日本語でご挨拶をされており、台湾の卒業生たちの日本語のレベルの高さに驚かされました。

開会式が終わり、先生と日本からの学生5名と台湾の学生3名になり、授業が始まりました。驚くことに、台湾の学生たちは私たちと同じ日本語の教科書を使って、日本語で話し書く授業を一緒に受けるのです。私自身、教科書の日本語を正しく理解できていないのに、彼らはその内容について日本語で質問し、日本語で作ったプレゼンテーション資料を発表しています。事務局の人が言った「言葉は喋れなくても大丈夫」という意味がようやく理解できました。彼らは実際に日本旅行のツアーガイドの仕事をしていたり、将来通訳になりたいと考えていたり、父親が卒業した近畿大学で学びたいという学習意欲がとても高く、私は

台湾の学生たちから大きな刺激を受けました。

内上先生のマクロ経済学の授業では、授業と問題集を通じてマクロ経済学の基礎をしっかりと学ぶことができました。特に、GDP (国内総生産) について、分かっているようで曖昧だった部分を明確に理解することができました。さらに、社会のさまざまな事物や現象には、どのような経済学の視点で解釈できるのかについても学ぶことができました。これにより、社会の事柄に対する興味も湧きました。



このスクーリングでは、台湾の学生と2泊3日の共同生活が最も楽しみでした。スクーリング会場の食堂が閉店していたので、夕食は先生、学生、事務局の皆さんで外のレストランに行きました。台湾の学生がいるので、注文には問題ありませんでした。みんなでターンテーブルを囲んで本格的な中華料理を楽しみました。コース料理が次々と運ばれてきて、かなりのボリュームでしたが、台湾ではこれが普通のようなのです。量以外に驚いたのは、肉料理には骨ごと切ってあるものがあったり、鳥料理には鶏の頭が入っていたりと、食文化の違いには少し驚きましたが、味はとてもおいしかったです。朝食と昼食はデリバリーでした。ホテルまで届けてもらえるので、とても便利でした。台湾独特のごはんですが、サンドイッチ、炒飯、餃子、牛肉麵など、どれもとてもおいしかったです。そして、量がたくさんあるのも魅力的でした。



2日目の晩ご飯の後、私たちは台湾の有名な夜市（屋台）に校外研修に行きました。台湾の人々はあまり家で食事を作って食べることは少なく、外で食べるのが一般的なため、夜市文化が発展してきたとのことでした。お金を外で使うことによって経済が活性化し、そのお金が何倍もの経済効果を生むことを学びました。

余談ですが、夜市に行くために台湾の地下鉄であるMRTに乗りました。電車のチケットは紙ではなく、プラスチックのメダルのようなものでした。入口の自動改札では日本の交通系電子カードのようにかざし、出口の自動改札では自販機の小銭入れのようなどころに入れる仕組みでした。少し楽しい仕組みでした。

今回の夜市は、スクーリング会場から MRT で約 5 駅の「淡水」という場所にありました。駅を降りると、周りにはショッピングセンターや日本のチェーン店もありました。クリスマスシーズンであり、街は美しい電飾で彩られ、とても華やかでした。

少し歩くと、名前通り美しい水辺が広がり、夜市の屋台もたくさんありました。人も多く訪れる観光スポットであり、デートスポットでもあるようです。夕食をたくさん食べてしまったため、台湾の B 級グルメを試すことはできませんでしたが、タピオカドリンクやお菓子を購入し、食べ歩きしながら観光しました。台湾では大きな街中にもお寺があり、お線香を買って軽くお参りすることができました。



2 日目の夜はホテルで台湾の学生と一緒にお酒を飲みながら交流しました。台湾のビールは薄味で飲みやすく、何杯でも飲めそうな感じがしました。会話は日本語で行われましたが、難しい言葉や知らない言葉が出てきたら、「それはどういう意味？」と尋ねてくれたので、英語で訳したり、スマートフォンの翻訳機能を使って説明したりすることが楽しかったです。また、私も使う台湾語の単語を教えてもらい、お互いに学び合うことができました。

休日の過ごし方や彼女とのデートについて話して盛り上がり、お互いの国を訪れた際には案内し合うことを約束し、LINE を交換しました。私がガイドをしている台湾人観光客には、日本の魅力を伝えるためにここに行ってみてほしいとおすすめの観光地情報を教えてもらいました (笑)。そして何よりも、話をしているうちに台湾で知り合った人たちはみんな日本が大好きだと感じてとても嬉しかったです。

3 日目は台湾でのスクーリング学習の最終日でした。この日の授業では、自分が考えたマクロ経済学の問題を他の人に出题して解いてもらうという活動がメインでした。前日にはマクロ経済学の学習内容を発表する大イベントがあったため、その後の授業はとても楽しいものになりました。内上先生の授業は分かりやすく進んでいて、時には面白おかしく楽しむこともできました。ありがとうございます。

また、この日までに 8 人の学生全員が打ち解けることができたことも大きかったです。普段とは違う環境で異なる人たちと学ぶ経験は、とても良い刺激になりました。楽しい思い出とともに、一生忘れられない授業になると思います。

3 日目の夜は台湾の近畿大学の卒業生や関係者が参加する校友会総会がありますが、時間があるので先に 3 日目と 4 日目に泊まるホテルにチェックインしました。ホテルはスクー

リング会場から MRT を乗り継いで行天宮駅まで行き、駅からすぐの場所にあります。事務局の方や台湾の学生たちが案内してくれたので、乗り換えもスムーズに進みました。このホテルは日本人観光客が主な宿泊客で、日本語がよく聞こえます。フロントには日本語が話せるスタッフが常駐しており、他の従業員も気さくに日本語で話しかけてくれます。外国に来たという違和感や窮屈さを感じることなく、本当に楽しめていることが幸せです。さらに驚いたことに、このホテルでも日本円から台湾元への両替ができるサービスがあり、便利でした。

近畿大学の支部総会が行われるホテルに到着しました。会場に入るとたくさんの台湾の方々に迎えられました。みんな近畿大学の卒業生や関係者の方で、さすが 6 年連続で志願者数が日本一の大学(現在は 10 年連続志願者数日本一) だけあって、台湾にもたくさんの卒業生がいることに感心しました。席に着くと、さまざまな方が入れ替わり立ち代わり話しかけてくれます。あの日本語の授業を受けてきた卒業生の皆さんはさすがで、皆さん日本語がペラペラです。同じテーブルには近畿大学国際学部の留学生の方々も 3 人いました。逆に彼らは周りの人と台湾語で話しています。大学での留学経験は本当に価値のあるものだ、双方の人たちを見て実感しました。私もコミュニケーションに臆せず、恥ずかしがらず少しでも話してみようと思いました。



総会は近畿大学の理事長である世耕弘成先生のビデオメッセージから始まり、カラオケを歌って踊るなど、とても楽しい雰囲気でも盛り上がりました。カラオケ文化も日本と同じで、それを知って嬉しく思いました。総会もあっという間に終わり、お土産もいただきました。

ホテルに到着すると、一緒に勉強した台湾の学生とお別れです。3 日間一緒にいて最初はぎこちなかったけど、徐々に仲良くなり、夜通し話をして盛り上った仲間と別れるのは本当に寂しかったです。また彼らも近畿大学に来て授業や試験を受ける予定なので、会える機会はあるようです。

その後、台湾のマッサージ店に行きました。台湾ではマッサージが有名で、日本人観光客もよく訪れるそうです。お店ではほとんどのスタッフが少しの日本語を話せて、料金は日本円でも OK という優しいお店でした。特に驚いたのは足裏の角質除去でした。剃刀のような道具で少しずつ角質を削り落としていくのですが、痛みはなく、足裏がすべすべになります。バルメザンチーズを削ったときのような削りかすもたくさんで、驚きました。一緒に行った以前に台湾を訪れた人からは、お風呂場で滑るから気をつけてと言われて、大げさだなと思っていました。しかし、足裏が滑りやすくて地面を掴めず、本当に滑ってしまいました。

ホテルの部屋に戻ると、同じ部屋の人とたくさん話しました。近畿大学通信学部の学生同士でも普段あまり話す機会がないので、顔を合わせて情報交換ができることは本当に幸せです。私は入学して3ヶ月目で右も左もわからない状況だったので、他のスクーリングや試験、単位のことを教えてもらえて本当に助かりました。

翌日、4日目の朝は内上先生や事務局の方と一緒に、学生全員でホテルのバイキング朝食を食べることから始まりました。日本製品の飲むヨーグルトなどを見ると安心して食事ができます。朝食を終えると、バスで郊外観光に出かけました。バスのガイドさんは初日から一緒にいてくれた面白い方です。バスに乗っていると、台湾ではバイクが主な交通手段であり、至る所にバイクの駐輪場があります。逆に車の駐車場はあまりなく、駐車場代が高いためだそうです。また、台湾ではバイクが多いのに事故が少ないのは、道路の優先順位が値段の高いものから順に優先されるという、日本とは異なる交通ルールがあるためだそうです。つまり、バイクを運転する際には車にぶつからないように気をつけなければならないということです。また、警察官の乗るパトカーや白バイは、BMWなどの高級車が多いです。経済成長率と公務員の待遇の良さがうかがえます。

今日の目的地は、猫空ロープウェイで高台からの絶景を楽しみました。その後、動物園でパンダや他の動物を見学し、たくさんの写真を撮りました。昼食は初めてデリバリー以外のしゃぶしゃぶのお店に行きました。台湾料理に少し飽きていた私たちにとって、久々の日本料理は感動的でした。一人一つの鍋で食べられ、とても美味しかったです。昼食後は、台湾の原宿と呼ばれる西門町を散策しました。たくさんの若者で賑わい、気を抜くと迷子になるほどでした。お店の種類や通りの雰囲気も、日本の原宿と似たような感じでした。



台湾のデパートにも入ってみました。作りは日本と変わらず、安心感がありました。実際、台湾を代表するデパートは三越やSOGOなど、ほとんどが日本企業が運営しているそうです。次に、レトロな街並みが広がる「萬華」という地区に行きました。ここも写真映える場所であり、外国人や中国人観光客も多くいました。ガイドさんが逆さまの福の文字の意味を教えてくださいました。読み方は「倒福」と「福が到来する」が同じみたいで、春節の時

期に貼るご利益を招くものだそうです。日本でいうところの、勝負に勝つためにとんかつを食べるようなものかなと理解しました。

次は中正紀念堂です。中正は台湾の初代総統である蔣介石の本名であり、彼の死後に建てられた場所です。中には蔣介石の大きな銅像があり、その周りを守る兵士がいます。この兵士たちの存在が観光スポットとなっています。なんと彼らは警備中一切動きません。瞬きさえしませんし、動くのは勤務交代時だけです。彼らの交行列は儀仗隊のように素晴らしく、見ていると真似したくなるほど魅力的です。兵士たちの動きに興奮した後は、台湾の代表的なスイーツであるカキ氷を味わいました。日本はクリスマス前で寒いですが、台湾は一年中暖かいのでカキ氷をいつでも楽しめるのは幸せです。有名店「思慕昔」で待ち時間を経て、ついにマンゴーカキ氷を食べることができました。やはりふわふわの氷と甘いマンゴーは口の中で幸せな気分してくれます。

夕方になり、私が一番行きたかった台北 101 に到着しました。このビルは東アジアで一番高く、夜景が美しい時間に展望台に到着できたことに感謝しています。1階から展望台のある5階までには、LOUIS VUITTON や GUCCI などの高級ブランドのお店が立ち並んでおり、目移りしてしまいます。そしてエレベーターで一気に89階まで上がります。このエレベーターは東芝製で安心安全で、ビルを支えるダンパーも大きなものが使われていて、揺れを感じませんでした。夜景を眺めながら写真を撮ったり、お土産を買ったりと充実した時間を過ごせました。夕食も中華料理でしたが、日本人客が多いお店で、味も日本人好みに作られていてとても美味しかったです。



ホテルに戻り、台湾最後の夜がやってきました。私は同室の方と台湾の原宿である西門町にタクシーで向かいました。西門町は夜でも若者で賑わっています。アニメのグッズ店に入ると、外と同じようにたくさんの方がいました。漫画本も台湾語や日本語で販売されています。好きなものから外国語を学ぶのは素晴らしい方法だと感じました。日本の漫画やアニメが世界中に広がり、市場規模を拡大し、日本の輸出の一部を支えていることを実感しました。

そしてついに、台湾スクーリングの最終日が訪れました。免税店で買い物をした後、昼食をとって空港に向かいました。私は台湾のお茶を試飲し、お土産として購入しました。帰ってきてからも時々飲んでいますが、香りが良くてリラクセスできます。そして空港で飛行機

の出発を待っていると、一緒に 3 日間勉強した台湾の学生が見送りに来てくれました。とても感動し興奮しました。その方も日本へツアーガイドの仕事で行くとのこと、忙しい中来てくれて本当にありがとうございました。

この 4 泊 5 日の台湾スクーリングを振り返ると、初めての海外旅行で緊張していた出発前と比べて、自分自身が成長できたと感じます。空港で緊張している私に話しかけてくれた先生や事務局の方、一緒に参加した通信学部の皆さんとたくさん話すことができ、最後まで楽しい時間を過ごせました。台湾の学生の方々も気さくに日本語で話してくれて、一緒に勉強することができました。お酒を飲みながら笑い合ったり、国や言葉の違いを気にせず、同じ近畿大学の学生として素晴らしい時間を過ごすことができました。この経験は私にとって忘れられない貴重なものであり、このメンバーでなければ得られなかったと思います。私はこの体験を基に、さらに学びたいと思い、世界をもっと知りたいと思いました。そして、積極的にコミュニケーションを取りながら、自己成長につなげたいと思うようになりました。

拙い文章かもしれませんが、海外旅行や言葉の壁で不安を感じている方は、ぜひ台湾スクーリングに参加してみてください。私のように大きな経験になり、考え方が変わるかもしれません。この旅行を支えてくれた事務局の方々に感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

